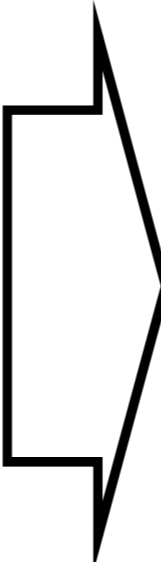


長期モニタリング項目新旧対照表
(海域ワーキンググループ担当部分)

分類前

	No.	モニタリング項目	モニタリング実施主体	対応する評価項目(※2)	モニタリング手法	評価指標	評価基準
海域WG(13項目)	1	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測	検討中	I、IV、VIII	MODISデータの解析により、知床半島周辺海域の水温とクロロフィルaを観測。	水温、クロロフィルa	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	2	海洋観測ブイによる水温の定点観測	環境省	I、IV、VIII	海洋観測ブイを斜里町ウトロ沖に1基、羅臼町昆布浜沖に1基設置し、春期～秋期の水温を観測。	水温	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	3	アザラシの生息状況の調査	北海道	I、III、IV、VIII	陸上及び海上からの目視調査。	来遊頭数	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていること
	4	海域の生物相、及び、生息状況(浅海域定期調査)	環境省	I、II、III	知床半島沿岸の浅海域における、魚類、海藻、無脊椎動物のインベントリ調査。	生物相、生息密度、分布	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていること
	5	浅海域における貝類定量調査	環境省	I、II	知床半島沿岸に設定された調査地点において、50cm×50cmのコドラートを設定し、その内部に出現した貝類の個体数を種ごとに記録。	生息密度、種組成	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていること
	①	航空機、人工衛星等による海水分布状況観測	第一管区海上保安部	I、IV、VIII		海水の分布状況	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	②	アイスアルジーの生物学的調査(種組成、色素量(クロロフィルa量))	東海大学、北海道大学	I、IV		海水で覆われた時期の海水内での基礎生産生物量の把握	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握	北海道水産林務部	I、III、IV		漁獲量を調査	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	④	スケトウダラの資源状態の把握と評価(TAC設定に係る調査)	水産庁	I、IV		資源水準・動向	おおよそ登録時の資源状態を下回らないこと
	⑤	スケトウダラ産卵量調査	羅臼漁業協同組合、釧路水産試験場	I、IV		卵分布量	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	北海道区水産研究所等	I、IV、VIII		来遊頭数	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていること	
⑦	トドの被害実態調査	羅臼漁業協同組合、北海道	IV		被害実態	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)	
⑩	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	海上保安庁海洋情報部	IV		表面海水及び海底堆積物の石油、PCB、重金属等の汚染物質濃度	基準値以下の濃度であること。	
担当委員	6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	環境省	II、III、IV、VII	ウトロ港から知床岬を経て相泊港までの区画ごとの繁殖数をカウント。ケイマフリは、生息が確認されている範囲において海上の個体数のカウント。営巣数の変動についても記録する。	営巣数とコロニー数、特定コロニーにおける急激な変動の有無	おおよそ登録時の営巣数が維持されていること。
科学委員会	22	海ワシ類の越冬個体数の調査	環境省	II	道路沿い、流氷上、河川沿いのワシ類の種数、個体数、成鳥・幼鳥の別などを記録する。	海ワシ類の個体数	おおよそ登録時の生息状況が維持されていること。
	⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング	オジロワシモニタリング調査グループ	II、III		つがい数、繁殖成功率、生産力(つがい当たり巣立ち幼鳥数)	おおよそ登録時のつがい数、繁殖成功率、生産力が維持されていること。
	⑨	全道での海ワシ類の越冬個体数の調査	合同調査グループ	II		海ワシ類の越冬環境収容能力	参考資料(基準なし)



分類後

	No.	モニタリング項目	モニタリング実施主体	対応する評価項目(※2)	モニタリング手法	評価指標	評価基準
① 海洋環境	1	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測	検討中	I、IV、VIII	MODISデータの解析により、知床半島周辺海域の水温とクロロフィルaを観測。	水温、クロロフィルa	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	2	海洋観測ブイによる水温の定点観測	環境省	I、IV、VIII	海洋観測ブイを斜里町ウトロ沖に1基、羅臼町昆布浜沖に1基設置し、春期～秋期の水温を観測。	水温	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	①	航空機、人工衛星等による海水分布状況観測	第一管区海上保安部	I、IV、VIII		海水の分布状況	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	②	アイスアルジーの生物学的調査(種組成、色素量(クロロフィルa量))	東海大学、北海道大学	I、IV		海水で覆われた時期の海水内での基礎生産生物量の把握	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	⑩	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	海上保安庁海洋情報部	IV		表面海水及び海底堆積物の石油、PCB、重金属等の汚染物質濃度	基準値以下の濃度であること。
② 魚介類	4	海域の生物相、及び、生息状況(浅海域定期調査)	環境省	I、II、III	知床半島沿岸の浅海域における、魚類、海藻、無脊椎動物のインベントリ調査。	生物相、生息密度、分布	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていること
	5	浅海域における貝類定量調査	環境省	I、II	知床半島沿岸に設定された調査地点において、50cm×50cmのコドラートを設定し、その内部に出現した貝類の個体数を種ごとに記録。	生息密度、種組成	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていること
	③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握	北海道水産林務部	I、III、IV		漁獲量を調査	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	④	スケトウダラの資源状態の把握と評価(TAC設定に係る調査)	水産庁	I、IV		資源水準・動向	おおよそ登録時の資源状態を下回らないこと
	⑤	スケトウダラ産卵量調査	羅臼漁業協同組合、釧路水産試験場	I、IV		卵分布量	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
③ 海棲哺乳類	3	アザラシの生息状況の調査	北海道	I、III、IV、VIII	陸上及び海上からの目視調査。	来遊頭数	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていること
	⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	北海道区水産研究所等	I、IV、VIII		来遊頭数	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていること
	⑦	トドの被害実態調査	羅臼漁業協同組合、北海道	IV		被害実態	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
	新規	シャチの個体数調査	観光遊覧船事業者等	I、III、IV、VIII	遊覧観光船からの目視調査等	目視頭数	今後検討
④ 鳥類	6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	環境省	II、III、IV、VII	ウトロ港から知床岬を経て相泊港までの区画ごとの繁殖数をカウント。ケイマフリは、生息が確認されている範囲において海上の個体数のカウント。営巣数の変動についても記録する。	営巣数とコロニー数、特定コロニーにおける急激な変動の有無	おおよそ登録時の営巣数が維持されていること。
	22	海ワシ類の越冬個体数の調査	環境省	II	道路沿い、流氷上、河川沿いのワシ類の種数、個体数、成鳥・幼鳥の別などを記録する。	海ワシ類の個体数	おおよそ登録時の生息状況が維持されていること。
	⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング	オジロワシモニタリング調査グループ	II、III		つがい数、繁殖成功率、生産力(つがい当たり巣立ち幼鳥数)	おおよそ登録時のつがい数、繁殖成功率、生産力が維持されていること。
	⑨	全道での海ワシ類の越冬個体数の調査	合同調査グループ	II		海ワシ類の越冬環境収容能力	参考資料(基準なし)
⑤ 地域	海域WGと科学委員会での分担・整理が必要						